



PISA

IN FOCUS

8



education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

今の生徒は楽しみで本を読んでいるのか？

- OECD加盟国の間では、約3分の2の生徒が日常的に楽しみで本を読んでいると回答した。
- 日々、楽しみで本を読んでいると答えた生徒の割合は、2000年から2009年にかけてOECD加盟国の大多数で下がっているが、いくつかの国ではその割合が上がっている。
- 毎日楽しみで本を読むことは、PISA調査での良い成績と関連がある。
- 女子と社会経済的に恵まれた生徒は、男子と恵まれない生徒よりも楽しみで本を読む者が多く、読書形態の違いは2000年から2009年にかけて広がったということが証明されている。

幅広い読書活動に意欲的に取り組んでいる生徒は、他の生徒よりも、効果的な学習者になり、学校で良い成績をあげる可能性が高くなる。成人における読書習慣、モチベーション、習熟度の強い結びつきを実証している研究もある。読解力における習熟度は、諸個人が自ら生きている世界を理解し、生涯を通じて学習し続ける上で、決定的なものである。

楽しみで本を読むことは、

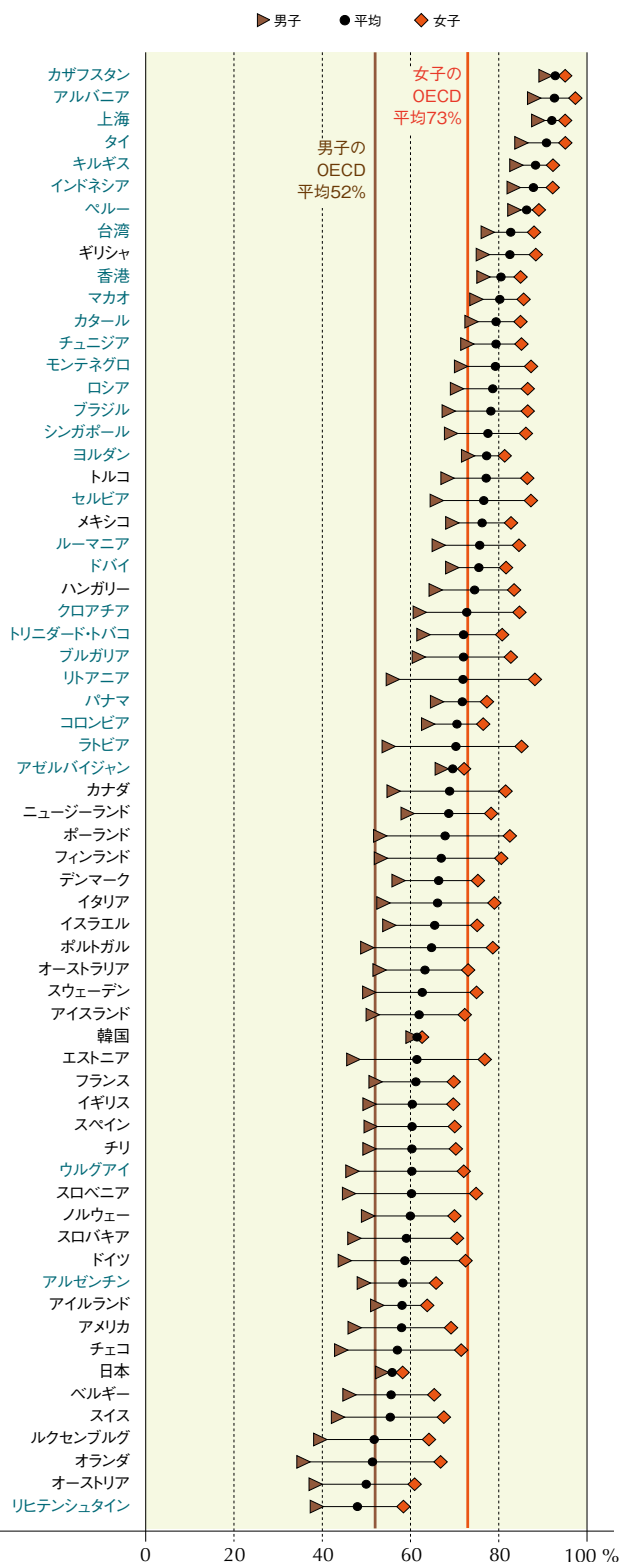
女子と… OECD加盟国における平均では、2009年は、37%の生徒が楽しみで本を読んでいないと答えた。そして、オーストリアや非OECD加盟国のリヒテンシュタインでは、調査された15歳児の半数以上がそのように答えている。対照的に、非OECD加盟国・地域のアルバニア、カザフスタン、タイ、上海では、90%以上の生徒が楽しみで本を読むと答えている。韓国を除くすべての国・地域で、女子は男子よりも楽しみで本を読むことが多くなっている。OECD加盟国の平均では、楽しみで本を読むことに男女間で20ポイントの差がある。カナダ、チェコ、エストニア、フィンランド、ドイツ、イタリア、オランダ、ポーランド、ポルトガル、スロベニア、非OECD加盟国のラトビア、リトアニア、ウルグアイでは、楽しみで本を読むことの男女の差が25ポイント以上になっている。韓国では、男子も女子も、同じように楽しみで本を読んでおり、日本、非OECD加盟国・地域のアルバニア、アゼルバイジャン、インドネシア、ヨルダン、カザフスタン、キルギスタン、ペルー、タイ、香港、上海では、楽しみで本を読むことの男女差が比較的小さくなっている。



PISA

IN FOCUS

楽しみで本を読む生徒の割合



…社会経済的に恵まれた者…

OECD加盟国の平均では、社会経済的に恵まれた生徒(調査国においてPISA調査の「社会経済文化的背景」指標の上位25%に入っている生徒)の72%が日々楽しみで本を読むと答えている一方で、恵まれない生徒では56%しかそのように回答していない。一般に、社会経済的に恵まれた生徒と恵まれない生徒における、楽しみで本を読む割合の差は、非OECD加盟国・地域よりもOECD加盟国で広がっている。10のOECD加盟国(オーストラリア、オーストリア、ベルギー、エストニア、フランス、ドイツ、アイルランド、韓国、ルクセンブルグ、スイス)では、社会経済的に恵まれた生徒と恵まれない生徒における、楽しみで本を読む生徒の割合の差が20ポイント以上になっている。

…PISA調査の読解力における良い成績と関連している。

楽しみで本を読むことは、読解力の習熟度と関連している。すなわち、PISA調査によって、PISA調査の読解力で良い成績をあげている生徒と成績の悪い生徒との決定的な違いは、生徒の読書に費やす時間よりも、楽しみで本を読んでいるかどうかにあるということがわかっている。平均して、楽しみで本を読んでいる生徒はそうでない生徒よりも学校教育の1年半に匹敵するほど良い成績をあげている。

しかし、ほとんどの国で、楽しみで本を読むことは広がっていない。

2009年の15歳の生徒は、2000年の生徒に比べて、読書にあまり熱中しない傾向がある。読書を楽しむことは、特に男子において低下している。OECD加盟国の平均では、日々楽しみで本を読むと答えた生徒の割合は、この間に5ポイント低下している。2000年では、69%の生徒が日々楽しみで本を読むと答えていたが、2009年では、64%の生徒のみがそのように答えている。22か国もの国で、2000年から2009年にかけて、楽しみで本を読む生徒の割合が減少していることがわかっている。

国・地域は、楽しみで本を読む生徒の割合(平均)の多い順に上から並べている。
出典: OECD, PISA 2009 Database, Table III.1.4.

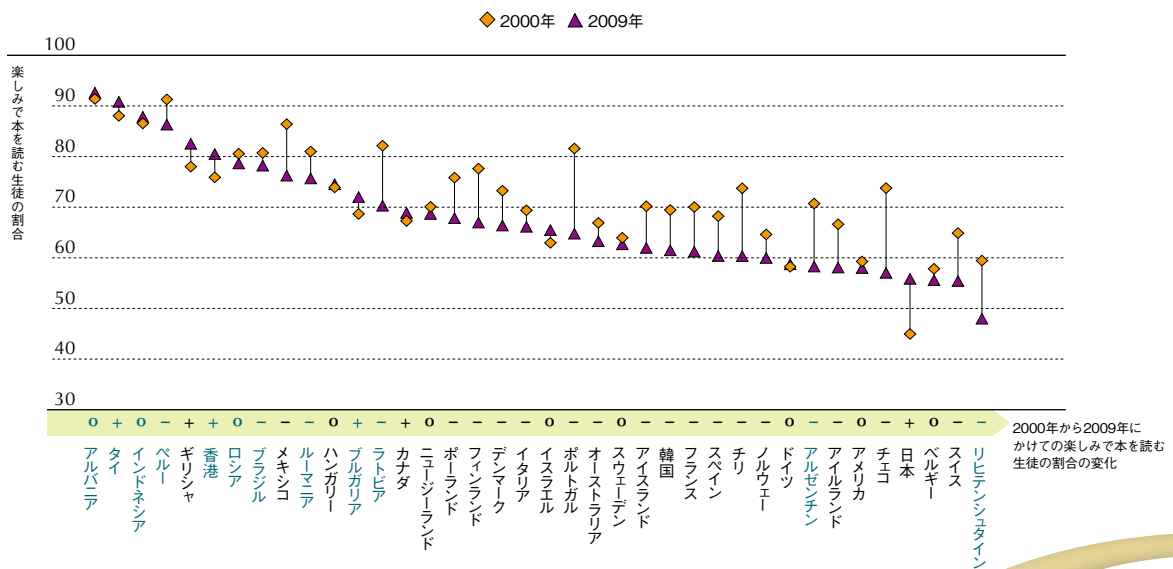


しかし10か国では、読書のパターンがその間、変化がなく、カナダ、ギリシャ、日本、非OECD加盟国・地域のブルガリア、タイ、香港では、2000年よりも2009年の方が日々楽しみで本を読む生徒が多くなっている。

2000年から2009年にかけて楽しみで本を読む生徒の割合が減少した国の中には、楽しみで本を読む生徒の割合が比較的高い国も含まれている。フィンランド、メキシコ、ポルトガル、非OECD加盟国のラトビアでは、楽しみで本を読む生徒の割合が、2000年の75%以上という比較的高いレベルから、10ポイント以上も低下している。

日本は、2009年では日々楽しみで本を読む生徒が3分の2以下であるが、2000年に測定された割合よりも大きな増加を示している唯一の国である。日本は、2000年では楽しみで本を読む生徒の割合が最も小さい国であったが、11ポイント増加している。ただし、2009年における楽しみで本を読む生徒の割合でも、ほとんどの国より小さい。

2000年と2009年における楽しみで本を読む生徒の割合



2000年よりも2009年が高い	2009年よりも2000年が高い	統計的に有意な差がない	95%信頼水準
+	-	O	

国・地域は、2009年調査における楽しみで本を読む生徒の割合の多い順に左から並べている。
 出典: OECD, PISA 2009 Database, Table V.5.1.



PISA

IN FOCUS

楽しみで本を読む生徒の中では、女子が男子よりも大きく勝っており、男子と女子の差は、2000年から2009年にかけて、OECD加盟国全体で3ポイント広がっている。2000年では、楽しみで本を読む男子は60%、女子は77%であったが、2009年までに、この割合はそれぞれ54%と74%に落ち込んでいる。興味深いことに、楽しみで本を読む割合は男女とも2000年より2009年の方が少ないが、男女の差の広がり、女子よりも男子でその減少が大きいという事実起因している。ほとんどの国で、楽しみで本を読む男子の割合は2000年から2009年にかけて減少したが、その傾向は女子ではそれほどでもなかったといえる。

結論: 日々楽しみで本を読むことは、学校での良い成績や成人してからの読解力の習熟度と関連があるにも関わらず、今日では楽しみで本を読む生徒が少なくなっている。親や教育者の課題は、生徒が興味や関心を見い出せる読書教材を提供することで、読書が楽しいという感覚を植え付けることにある。

本稿に関するお問い合わせ先

担当: Francesca Borgonovi (Francesca.Borgonovi@oecd.org)

出典: PISA 2009 Results: Learning to Learn: Student Engagement, Strategies and Practices (Volume III) 及び PISA 2009 Results: Learning Trends: Changes in Student Performance Since 2000 (Volume V)

参考サイト:
www.pisa.oecd.org

次回テーマ:

「学校の自律性とアカウンタビリティー:
これらは生徒の成績と関係するのか?」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。